

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

Red

Yellow

Green

Cyan

Blue

A 1 2 3 4 5 6

M 8 9 10 11 12

B 13 14 15 17 18 19



歌辭要解  
上

4  
1136  
1



20

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

1m

20

門へ割4 特  
1136  
巻1-2

### 歌詞要解糾謬 序

此要解といふ書  
を概よるに  
或人のりて未  
て足せざるは  
うらへりて  
―つらやい  
ひのすぢを  
さぐるに  
れものせり  
まらぬれいと  
をこれるこ  
よ。こころ  
―あす  
やまれの  
此書のか  
出づるに

### 歌詞要解糾謬 の序

いづれのよに  
えんねと今  
言にほり  
何るは  
并家  
とし  
かめて

國書

冬

訂正

いゝとまほしきこと  
もたうとまて  
りることおほけ  
もおのれをやく  
八重垣とふ書の詞  
寄のあやまれば  
しくをた  
おののふあ  
ちるののふ  
ハなれ  
筆のいとま  
やせんま  
こと思ひて  
ふいとめ  
此書の中より  
ころ沈舟と  
古きを引  
後の寄を  
ひす  
一きを引

まほ人のよき道神  
うほくまひまたあ  
まもまもあれあ  
ま  
まのま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま

下りくハ  
ぬ寄を引お  
ぬかほ  
み  
水  
ま  
あ  
ま  
ま  
ま

文化八年十二月  
泊瀬舎主人  
識

あまはくさき  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま  
ま

丁幸 良年 亭

二

ねんころをねもこ  
らよつふ百葉かの  
奇はてしなくう  
うくる文よつうこ  
あ〜ん

ふとこはゆ〜津〜人〜つ〜後たし  
ねんころもあわきまのほい  
まよまよてし

又代三年春二月

夏樹伴實規誌

歌辭要解

い之部

三言

いも

妹也

妻のこころねどもつぐ女とて

いも

さうでうい〜い〜ふて  
俗に〜い〜い〜い

いや

弥也つ〜

俗ふさあ〜

又ま〜んとかう〜い  
まのい〜い〜い〜い

いら

日本紀万葉に不表と〜い  
に同〜古まのほ満あ〜て同ま〜

万葉

いも

ゆけのれ川ぬさし〜ら〜り  
古今 かく〜い〜い〜い〜い

三言

い〜

な〜い〜い〜い〜い

い〜

人〜い〜い〜い〜い

辛安暁

つこい何所いつちハ  
何道之同一やあつ  
とろひのあり  
江次第+伊毛比とある  
折檻よあ〜日禁の  
字より俗言ヨリコレヨ  
ニシロと〜と

めりハ〜の河のト  
つきて〜俗言のテア  
コレとふ〜の

言

い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い

いハ〜の解  
と〜の解  
〜の解

いハ〜の解  
〜の解  
〜の解

い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い
い	い	い	い	い	い	い	い	い	い

千辛安評

二



舌

いこがねのま	又いこがねをいれ、舌のねのま	いこがねのま	又納涼をいれ、いこがねのま
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる
いよめる	いよめる	いよめる	いよめる

いこがねのま 俗に云ツ  
ト其の字あり  
り此解よりハ  
の解ナリ

はら部

舌

はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら
はら	はら	はら	はら

宗紙の説にぬり氷をいふ愚按いて氷をいふは雪に似たり  
と云ふはさちやちてのまふいづるべうは寒炭問湖陰也

はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま  
はら 雪のま

辛 羊 是

花の木

にわろく  
端居也

こしえ  
樹木の枝乃地と  
這ひしつ

こし木  
まろく

なすこまの神のまろくこつてせしむるまの  
こまこつてせしむるまの  
こまこつてせしむるまの

言

こま  
無業也いろつても  
かたしと

こまけ  
いろつても

こま

む養育也

こま

八重に筆之このま入私按花の候木の  
かたりなす奇てつて八重の悦の  
こま

の美衣

けの  
なり

えろりこ

祝子まきり并社  
につく人きり

たう鷹の惣名かり  
たう鷹の惣名かり  
たう鷹の惣名かり

飛く  
○けこまのこま  
○けこまのこま

こま  
こま

花の木の木と異  
名よふ筆頭花  
とふ故事よふ  
こま

此説一カ、

言

ま本  
花の木  
のこま

けつ  
初

初

三月

ゆへ  
初

初

初

こま

こま

こま

こま

こま

こま

あふ

あふ

あふ

あふ

かた  
手  
かた

かた

かた

花の木の木

花の木の木



予のこの説は中二つあり  
 一は「予の予」は予  
 こと不説とあり田子  
 早は「予」は予  
 かつ「予」は予  
 一は「予」は予  
 語のもと「予」の字なり  
 ソロ「予」は予  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」

梅二年中の花の  
 一は「予」は予  
 つい「予」は予  
 の予「予」は予

予のこの説は中二つあり  
 一は「予の予」は予  
 こと不説とあり田子  
 早は「予」は予  
 かつ「予」は予  
 一は「予」は予  
 語のもと「予」の字なり  
 ソロ「予」は予  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」  
 ナラヘモツカヌ「予」

予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	予	予	予	予	予	予	予	予	予

予辛安洋は

予

はしそり俗よ小楠  
と云ハウグサとシムハ  
そくその音使ヨ  
テろりふあひ

ちりつら<sup>しん</sup>ま<sup>ま</sup>て<sup>ん</sup>と<sup>ん</sup>ふあけて<sup>て</sup> 天のむらさきを

日 ひらま<sup>ま</sup>さ<sup>さ</sup>ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>を<sup>を</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

新古 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

歌 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

七 まの<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>に<sup>に</sup>

あをハサアツク平ら  
けあをさふ詞をそれ  
すうけつてあま  
もいふ

庭も又庭面背の  
可れ...庭の...  
とひひて...

万矢の烟舟物  
ふ付...  
月に行...  
淨神事...  
無似氣也物の相應  
に

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

七六  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の  
庭の

和歌集

さうんとて木くげふねとたくとまのりそよ  
そのねとまきむ本とほぐりそよまうり

のうげまうり○おののかうげ  
まどのほろげおまうり

わびをその生そよ  
そのまのりそよ

かのうちをこいりそよ○まのりか  
りい此方よりかのうふそよまうり

あけそこの  
わりのそよ

音もま奇りは非らぞ  
文の細をまうり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

かうげ  
まのり

ほかま  
指のほの浪の  
ほまうり

かのう  
まのり

かのう  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

五六  
七言  
わやうのたうり  
わやうのたうり  
わやうのたうり  
わやうのたうり

若薄萩指かまの敷皆極のつとま  
物のあはれれもかにいづるとま

殆字が系にうまりあやまのま  
しとま故に近くまのま通を本と伐芥の音とほ

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

まのり  
まのり

丁幸 早屏 ば



外ノ国ニ轉レテ  
ハトシ遠國のん  
ニト用カケ

とみくさき船の  
ことニハ後ハ流ニ  
ミヤニオフルトミクク  
花也風俗奇ニヨリ  
とれハ船とのミナム

言四  
トコトシ 豊年也也  
トコトシ 常不止也  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり

トコトシ 豊年也也  
トコトシ 常不止也  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり

トコトシ 豊年也也  
トコトシ 常不止也  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり

トコトシ 豊年也也  
トコトシ 常不止也  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり  
トコトシ 常のねなり

トコトシ 豊年也也

ときもいふあはれさき  
 を賞讃する故を  
 こころもは必ずしも  
 時つれハ万葉も  
 よみて海よみほ  
 くハ必ずしも  
 風十面のこころ  
 といふ

き 年 <small>よ</small> ひ 老人 <small>を</small> なり	き 年 <small>よ</small> ひ 老人 <small>を</small> なり	き 年 <small>よ</small> ひ 老人 <small>を</small> なり	き 年 <small>よ</small> ひ 老人 <small>を</small> なり	き 年 <small>よ</small> ひ 老人 <small>を</small> なり
もも 母 やもめ 母	もも 母 やもめ 母	もも 母 やもめ 母	もも 母 やもめ 母	もも 母 やもめ 母
の 故事 <small>も</small> 時と	の 故事 <small>も</small> 時と	の 故事 <small>も</small> 時と	の 故事 <small>も</small> 時と	の 故事 <small>も</small> 時と
新古 七の 耳 <small>の</small> 声 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん 鶴 <small>の</small> の 心 <small>の</small> 思 <small>ふ</small> こと <small>も</small>	新古 七の 耳 <small>の</small> 声 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん 鶴 <small>の</small> の 心 <small>の</small> 思 <small>ふ</small> こと <small>も</small>	新古 七の 耳 <small>の</small> 声 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん 鶴 <small>の</small> の 心 <small>の</small> 思 <small>ふ</small> こと <small>も</small>	新古 七の 耳 <small>の</small> 声 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん 鶴 <small>の</small> の 心 <small>の</small> 思 <small>ふ</small> こと <small>も</small>	新古 七の 耳 <small>の</small> 声 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん 鶴 <small>の</small> の 心 <small>の</small> 思 <small>ふ</small> こと <small>も</small>

豊明のありは  
 新嘗祭の明日を  
 豊明のありは  
 新嘗祭の明日を

こころ 心 心 <small>の</small> 聲 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん	こころ 心 心 <small>の</small> 聲 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん	こころ 心 心 <small>の</small> 聲 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん	こころ 心 心 <small>の</small> 聲 <small>や</small> 羊 <small>ら</small> ん
又 心 <small>も</small> は必ずしも	又 心 <small>も</small> は必ずしも	又 心 <small>も</small> は必ずしも	又 心 <small>も</small> は必ずしも
六言 鷹の飛	六言 鷹の飛	六言 鷹の飛	六言 鷹の飛
日之 群臣に 妻と 終り	日之 群臣に 妻と 終り	日之 群臣に 妻と 終り	日之 群臣に 妻と 終り
新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり
新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり	新嘗祭の明日の 御被かり

新嘗祭の明日

とくくの竹 和の竹 入日の時

雲の篠に似 とくく 太平に

つものぞら 駿也 友人のぶれ

常盤堅盤也 常位不変の 多

とくく 本ころ 新と

ゆ 君のふ 君の宿

とくく 君の宿 君の宿

ひのかた 人にも 物

時 十 十 十

とくく 留也 俗に

俗に の の

とくく の の

とくく の の

とくく の の

とくく の の

とくく の の

とくく の の

とくく の の

十 十 十

十 十 十



十有と小郡名を  
一今十有と地を  
不ありと地を  
ありと地を  
ありと地を

つ 暮春の故事うら春も書ひけり  
根ふさり鳥の雲ふつと

まゆめ 十津川にらぶるのり  
奥州十津川の船より

わく いらふも  
かぐと

ろくろ 吾日のつ  
のわさの

ちのぶ 誓也  
神をけむる

ちのや 人の花  
らるる

ちの部

言二 ちぎ 神社のやみしに  
片さだのちふら  
ちの左吉の人

ちの千二下のひつけ  
河を敷をかそつ  
時そへてふゆつ  
よあるけ千世  
十の千は回つ  
とふよて知

ちの ねむり ちのふら  
ちのふら

言三 ちのの 千里也  
とけり

ちの 誓也  
神をけむる

言四 ちのら 千町田也  
ひらひ泥也

ちのら 鐘るり金銀と  
きり

言五 ちのり ちのりの  
ちのりの

ちのりの ちのりの

血の涙に下和り故事  
よるふに韓非子和氏  
扁子と云

吉 五 節

一四

つらつらつと説々多し思ふ  
神にこそんとの格詔なり  
ちんかきぞ  
つぎつとてんかかへん  
至くつとてんかかへん

涙つとて後いさく血ちりく  
つらつらりのみ来てなれしと  
つらつらりのみ来てなれしと  
つらつらりのみ来てなれしと  
つらつらりのみ来てなれしと

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

佛家より弘誓の  
船よりよめ是をり  
ちんかきぞ  
佛の慈悲の  
船の海を

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ  
ちんかきぞ

新撰 巻角

らぶさのじふい

母の母とむい  
あで抜るうり

らぶさうらきふら

万声無止時とてふらうり

らうらつぐさのい

徒塵也○古々真名序に誦んオ子暴風徒塵これ  
らうらつぐさのい

そと部

らうら

十二律の細子ハ  
かり呂ハ春夏の細子  
かり

ぬい部

ぬい

幣也幣とぬい  
別ふらと袋ふつて送り  
是ハ五色の

幣とるふら  
道の神にまら

ぬい

言三

ぬい  
うらしの木をり  
ぬい

ぬい  
ぬい

言四

ぬい  
無賣ぬい  
ぬい

ぬい  
ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

ぬい

新撰 要解

十六

めらの上と上と



ねまふ郭公もほとと  
まよふくもほとと  
下りてくもほとと  
りてくもほとと  
何れもほとと  
みまあやま

まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の

まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の  
まよふくもほとと遊蕩の人と云ふもあつくと流土の

わき部

言三二 わせ 子楢 わと 我と わつと の休 わつえ 子楢

わねて て

春ハ借字ニ本春  
ハ兄又妹の義ニ

わいハ譯一ハ  
漢辭書ニ感ニ  
たニ譯一ハ  
りハ  
セ

わねて こころも又わりなきのえりも利のこころも

言四 わがま 我背子也ま わく 避迄也 つら 子楢

わり 日本 われ こころのこころも つら 子楢

虫のされうとわれとさるうとさるうと

竹と巻して

海の名也

こころも

わびく

乾のさかひへいへるを云  
 家もちちりいへるを云  
 形よりいへるを云  
 けわらふはなはしむ  
 記  
 萱草を忍草と云  
 ことわりの大和物  
 をよくもよみ  
 ぬ人の誤り

全葉「この月おほけけけけけけ」  
 古く「わさ」  
 排優也強れ言  
 若鉦  
 三途川  
 ことこれ水

わらわ 俗にいふ  
 ヤラヤラ  
 わざと 排優也強れ言  
 のういなり

言五 ことこれ水  
 又思ふもい萱草の  
 吉の家ふれるゆゑ  
 若鉦  
 三途川  
 ことこれ水

物ふくねて流る水と○ありも  
 こともつ 若鉦  
 三途川  
 ことこれ水

言六 わたつぬ 心の  
 わらねのくし  
 背舟ま行船群れの時帝  
 まづり根とらせて名姓と  
 ことこれ水

ぬめの細く  
 わらねのくし  
 若鉦  
 三途川  
 ことこれ水

もい  
 わらねのくし  
 水に  
 ことこれ水

言七 ことこれ水  
 ことこれ水  
 ことこれ水

古今  
 ことこれ水

かゑ部

言二 言かひ  
 ことこれ水

ことこれ水  
 ことこれ水

ことこれ水  
 ことこれ水

ことこれ水  
 ことこれ水

下 辞 集 解 か

上文をぬくろいふ  
ソソク

辛也 辛也 辛也

あつちつちつ 辛也 辛也 辛也 〇うらまきうらまき

かき 片方也 又側也 古今に引つと杖とひきまのうらまき

かき 片方也 又側也 古今に引つと杖とひきまのうらまき

かりや 又引換 かりやのうらまき

離也 〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

櫻洋国 栢梨庄と  
ふより奉る酒故  
よりくふ

言四 川のうらまき 〇うらまき 〇うらまき

水のうらまき 〇うらまき 〇うらまき

川隈とまうり 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

〇うらまき 〇うらまき 〇うらまき

辛也 辛也 辛也

かどろ

廉也西のたじれたとついのむかへ

かどろ

形代也人などの

具をよ用也

かどろ

かどろ竹の葉をよ用也

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

林樂の

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ

かどろ

かどろのむかへかどろのむかへ

かどろ

かどろ





言 かな かな

お陰「くるのり」くろくまの「くろくま」くろくまの「くろくま」

言六

うらのかりて 雲の板とつら ころのいへ 髪のかり くだ

のけいせ

炊やりの煙の立とり

くろくまのいへ

内わたさず

かまの

あまね

鴨のさみのさき いろもろもろ

くろくまのいへ

鴨のねのさき きたり

風のなまり

さむらひのいへ

風のうら

あまのくろくま

ほろ

仏人のうら かな かな

くろくまのいへ

あまのくろくま

くろくまのいへ

くろくまのいへ

麻の子の毛色はま かな かな

凡てついでとよ

あまのいへ

あまのいへ

あまのいへ

あまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

夫木「くろくま」のいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

くろくまのいへ

かばやういへ

かばやういへ

かばやういへ

言七

か

か

とつて... 縁起... 縁起も... 縁起も... 縁起も...

「の...」 「の...」 「の...」 「の...」 「の...」

付て... 付て... 付て... 付て... 付て...

捨遣... 捨遣... 捨遣... 捨遣... 捨遣...

日... 「天の...」 「天の...」 「天の...」 「天の...」

よの部

言二... 夜半也... 夜半也... 夜半也... 夜半也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 夜也... 夜也... 夜也... 夜也...

よ... 深... 深... 深... 深... 深...

よ... 身... 身... 身... 身... 身...

よこをりし書は渡  
二んをくハ  
おろり

よこをりし書は渡  
二んをくハ  
おろり

よこをりし書は渡  
二んをくハ  
おろり

言部

二十四

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

横山と火い白き  
二新 櫻六帳子よ

横山と火い白き  
二新 櫻六帳子よ

横山と火い白き  
二新 櫻六帳子よ

清涼殿ふらり  
天子の御ねり  
今替の女守をかり  
うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

清涼殿ふらり  
天子の御ねり  
今替の女守をかり  
うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

清涼殿ふらり  
天子の御ねり  
今替の女守をかり  
うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

清涼殿ふらり  
天子の御ねり  
今替の女守をかり  
うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

清涼殿ふらり  
天子の御ねり  
今替の女守をかり  
うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

言部

二十四

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

うきうきかたりそそ母の如信と  
すうてこ又夜うの如信と  
折 同上すづく横と  
ふせるさやの中ふり  
ふま 下にも面ひみの  
ま 下にも面ひみの

田舎ことと説く  
れと竹田井の  
いよ

七 一人にぞめよ 世の人定め  
よりのけたる人のきり

八 ぼよめ 百景とよめる  
言十 ぼよめ 祝ひの夢なり

九 音 わらわのきこえ  
音 わらわのきこえ

十 音 わらわのきこえ  
音 わらわのきこえ

十一 音 わらわのきこえ  
音 わらわのきこえ

た之部

二 たか 田井也田のうら  
言二 たか 田井也田のうら

たづ 鶯也ほろ

たづ 田ふいぞう

たづ 手が

たづ 手が

三 たづ いづこあやむ  
言三 たづ いづこあやむ

四 たづ いづこあやむ  
言四 たづ いづこあやむ

五 たづ いづこあやむ  
言五 たづ いづこあやむ

六 たづ いづこあやむ  
言六 たづ いづこあやむ

七 たづ いづこあやむ  
言七 たづ いづこあやむ

八 たづ いづこあやむ  
言八 たづ いづこあやむ

九 たづ いづこあやむ  
言九 たづ いづこあやむ

た

た





佛燈七宝室地といふことありその室地

たのハ小井一  
 竹の葉もつめ古語  
 枯道工天棚機姑神  
 の二書子あらし

本居氏山松をえをわ  
 ヤナリてふことしな  
 とた

極樂の八功德水也  
 尺教にひびくはさうり  
 親王とり梁の  
 卷王の故事  
 げりしるとふた  
 んそりふた  
 と  
 竹林の  
 たのきれさか  
 田のきりふあめ  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹林の  
 たのきれさか  
 田のきりふあめ  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹林の  
 たのきれさか  
 田のきりふあめ  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹林の  
 たのきれさか  
 田のきりふあめ  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹林の  
 たのきれさか  
 田のきりふあめ  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹の小枝  
 たふのひびき  
 谷の自然とぬに  
 ひびくこゝろのゆえ  
 たあだ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹の葉と吹  
 びつるの  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹の葉と吹  
 びつるの  
 たららりり  
 竹のそのふ  
 竹の葉と吹  
 びつるの

竹の葉と吹  
 びつるの





そこのたのめ たのめ たのめ たのめ たのめ

そのひの 北城 北城 北城 北城

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

其の

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

その たのめ たのめ たのめ たのめ

つと部

言二 つまよ すべてものけしとつまよしつとあつた  
ころもの女 庭のつとをとりなり

言三 つとぐ つかんとおろしはひりくさまのなるあつた  
きかふてらぬべー 破くと解る

つとでなれとも 月夜 言四 つたゆ 櫓の木も弓也○あつ  
み引つたなり たり

つとよま 難面也あつてづとさつとも同いつたがたのころさつともあつ  
いとも面とちけをきくべがかりてかりとつとをり

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 難面也あつてづとさつとも同いつたがたのころさつともあつ  
いとも面とちけをきくべがかりてかりとつとをり

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとつとわつとつとつとつと  
開つとつとつとつとつと  
りつとつと

月草をわつとつとつと  
ふつとつとつとつと  
りつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つとま 杖也一つとよのるつとつとつと  
わづらつとつとつとつとつとつと

つたのかぐと 月と鏡小え つたふびる あつたの つたのけ

つたのう 月中に桂ととりつり つたのま 松に月

つたのや 天上月 つたのふ 月と爰する 月

つたのふ 月の水にうつり つたのふ 氷に

つたのふ 月の水にうつり つたのふ 氷に

つたのふ 月の水にうつり つたのふ 氷に

つたのふ 月の水にうつり つたのふ 氷に

つたのふ 月の水にうつり つたのふ 氷に

ねと部

ねと ねと ねと ねと

言三

言四

言三

言四

言三

言四

ねんこらすけ  
ふむしりしこらと  
ふむしりしこらと  
湯

ねんこら 此にせらるおん ねんこら 林にぬき

ねんこら ねんこらと ねんこら ねんこらと ねんこら ねんこらと

五 ねんこら 五のぶゆあまきに ねんこら 侍人也す ねんこら ねんこら

ひがり 夏の黙持 ねんこら 根のたれた件 ねんこら ねんこら

戸のたれたるなり忘 ふすちの月と ねんこら 十九日の月と ねんこら ねんこら

六 ねんこら あつるねんこら ねんこら 寝魔也ねんこら ねんこら ねんこら

言 ねんこら あつるねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら 七々の初 ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら 人定 ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら ねんこら

なほ...  
いふ...  
や...

なほ之部

言二 **なほ** 汝也きれ畜乳  
**なほ** 汝也きれ畜乳  
**なほ** 汝也きれ畜乳

**なほ** 和也物さだたかだ又凡さぎそをどつても  
**なほ** 和也物さだたかだ又凡さぎそをどつても  
**なほ** 和也物さだたかだ又凡さぎそをどつても

**なほ** 並也かきび  
**なほ** 並也かきび  
**なほ** 並也かきび

**なほ** 花けけり  
**なほ** 花けけり  
**なほ** 花けけり

**なほ** 泥也  
**なほ** 泥也  
**なほ** 泥也

**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也

**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也

なほ...  
て...  
川...

無礼也物の作法もかくれと  
奢り人とおしむるをかり  
かいつてこのへ何し又俗ふたぬまうこつふもぬぞうとつこのりぬ  
るの中んすくふ又そのぬまうとつこのりぬ  
かいつてこのへ何し又俗ふたぬまうこつふもぬぞうとつこのりぬ

**なほ** 等用也俗にいつる  
**なほ** 等用也俗にいつる  
**なほ** 等用也俗にいつる

**なほ** 秋の粟  
**なほ** 秋の粟  
**なほ** 秋の粟

**なほ** 森雨也霖ぬこつ  
**なほ** 森雨也霖ぬこつ  
**なほ** 森雨也霖ぬこつ

**なほ** 婿也その  
**なほ** 婿也その  
**なほ** 婿也その

**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也

**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也

**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也  
**なほ** 追難也

下辛安伴

三十二

百葉のりぬかきき  
 上ふなつふふ水木  
 木造よりきりて不  
 ゆる源氏はとよ  
 かなれむつらむ  
 久々同語まき  
 二別語

とよは吉野山より  
 とつひを連ねよん  
 あふことをいひ  
 くるはか皆其山の  
 右より見てるる  
 つふふと名よ  
 きこえとを思ふ  
 あふまうん

女 長角

たる 名のゆえの  
うたわたり かのりそ  
林馬鹿しむらりのこ かく

さよ 割きよ  
うらら かのりさ  
さるる客 かのりひ  
竹のゆへ かく

かづらまき  
長鳴し鶏とからまき かのり  
くもをがまき かのり  
さつとりのほ かのり

かふゆ  
名負也 かのり  
あやの 中か  
隣家 かのり

らう  
平也きびくの かのり  
かた かのり  
唯也 かのり

かづね  
松川 かのり  
つゆの川 かのり  
あつび かのり

引か  
あつむ かのり  
あつむ かのり  
あつむ かのり

同くすわいとらりの中垣にのちも若るあまの

は採 づらむめわれぬもの  
あつむ のちも若るあまの

古今 秋のふ  
か のちも若るあまの

言五 かのり  
あつむ かのり  
あつむ かのり

かびた  
こるの凝也 かのり  
本こり かのり

言六 かのり  
あつむ かのり  
あつむ かのり

ほの  
あつむ かのり  
あつむ かのり

の  
あつむ かのり  
あつむ かのり

れ  
あつむ かのり  
あつむ かのり

此註をえ  
 上文たんの  
 毒

下 年 年

年

とらふ 枝葉の七宝寶樹と

七言 酒の流産と

用 酒と流産と

用 酒と流産と

用 酒と流産と

用 酒と流産と

用 酒と流産と

ら之部

ら 菌の花也

ら 昔のまの

む之部

二言 宜也又

出 花んと

ら ら

古書 ら



月名、野居、朝の結  
急考、ふくまひ、ふくまひ  
いふれ、ふれ、ふれ、ふれ  
定説、と、思、も、思、

むらり、け、わ、そ、う  
け、な、り、と、い、ふ、

むらり、ま、よ、り、後、世、の  
語、之、古、書、の、皆、め、め、  
玉、之、古、今、の、頂、上、  
ふ、り、い、ま、と、い、ふ、  
又、後、よ、む、り、と、い、ふ、  
と、誠、れ、り、一、語、の、  
と、と、様、ま、を、て、説、  
を、つ、つ、ら、い、説、

むらり、車、註、甚、誤、之、車  
の、よ、ま、屋、の、形、は、ま、今、ま、  
八、車、の、よ、ま、ひ、も、ふ、ま、  
い、て、秋、草、紙、類、は、  
自、集、は、り、と、い、ふ、  
の、車、よ、ま、の、り、

三十一

<b>言三</b> むつと	正月のいふ〇正月親したるなり候とく みらりやうくする由も正月とむらり	又むらり月 むつと	又むらり月 むつと	むつと むつと	むつと むつと	〇たへは、 〇たへは、	〇たへは、 〇たへは、	〇たへは、 〇たへは、	<b>言四</b> むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと
------------------	---------------------------------------	--------------	--------------	------------	------------	----------------	----------------	----------------	------------------	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------

なり人	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと	むつと	むつと むつと	むつと むつと
-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------	-----	------------	------------

行、津、安、解

む

三十八



ひひちたうた ひひつりて物 ひひちたのちり ひひちた

ひひちたのちり 舜王崩す時皇女哀しくて ひひち ひひちた

ひひちたのちり 出羽の国名きたふく ひひちたのちり ひひちた

ひひちたのちり 六春日 ひひちたのちり ひひちた

ひひちたのちり 女と驚ふ ひひちたのちり ひひちた

うの部

二言 憂也 うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うの うの うの うの うの うの

うつら... 心...  
 うつら... 心...  
 うつら... 心...  
 うつら... 心...

うつら... 後丈也丈... 死...  
 うつら... 再び丈と...

うつら... 日本... 其... たい松...

うつら... 秋の... 日...

うつら... 七...

うつら... 薄氷也...

うつら... 海松...

うつら... 嫡妻死...

うつら... 空...

うつら... 飽...

うつら... 二...

うつら... 是も上に...

うつら... 垂髪也又童子也...

うつら... 嫡妻死...

うつら... 空...

下幸要屏

四一

言五

うらわらひ

うらわらひ うれしきことなり

うらわらひ

うらわらひ うれしきことなり

うらわらぶ

うらわらぶ うれしきことなり

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ 雲珠極也これ見のうらわらぶにこれいふくさひ石とうらわらぶと云ふなり又馬の鞍もうらわらぶと云ふなり

一向ま新古今  
うらわらぶと云ふ  
めらあやちたて  
よりあやちたて

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ

うらわらぶ











うやうや かろのうーくま  
おほく かくのうーくま

おほく かくのうーくま

おほく かくのうーくま

おほく かくのうーくま

五言 祖又 祖母也  
おやのみや 祖又 祖母也

おやのみや 祖又 祖母也

おやのみや 祖又 祖母也

おやのみや 祖又 祖母也

たまねさびに老て  
花やくらと身しく  
ハ別考あり

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

おろし おろし

安きまゝの鬼すゝく人とまゝ  
おのゝり  
想像也

のしとまゝゆゑにゆゑのまゝ  
とせり此字まゝていんうり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

思ひやり  
大まきよとらり

鳥の  
念珠の  
おいでぬり  
不老門を日月速く又故事  
也つすも老を殺す行く

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

おのゝり  
おのゝり  
おのゝり

わふのきこくわ 傳來の後に對境とつてさうがはに引舟のきこくわん  
んとておぼもちれぶるもあふのきこくわりな

ま家りんまめいしと作とさふしんまこのんきこくわり鬼  
の字も醜のまの目一息きんまり日本紀ふこ女といふ目一

えはな  
大はな  
いし 狂月のしちちつわん きこくわ のきこくわん

新葉 わづれ 軒 わづれ 軒 わづれ 軒 わづれ 軒 わづれ 軒

く之部

くろ くろ 人に物とつらんにさあせとつら  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くき くき 都心の  
くき くき 降也幸く  
くき くき 降也幸く

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

すくくめつハ組  
様の軒之別ノ老  
わづれ

かり月日もさ  
しん しん 腐しつて洞に袖とくくさるべり酸ふく袖の  
しん しん 朽さるるしん 又世のあふかりたるしん  
しん しん 雲飛落ともいふ雲の  
しん しん かいとて雲の落しる

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう  
くろ くろ 又もさうさ悔いとさう

五葉子国極等みと  
訓照せしハ多ひて  
五言よせんしつ字  
すうりつ照せし訓  
くろなうかと四言  
すうりつまきしつ



古詩集

牡丹々々々 所原のこゝろさるか  
死人と葬る所のさるまゝ

物とばらばらさるまゝ  
ふふふとさるまゝ

まゝ ひとかたのこゝろさるまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
晩夏 初秋の夕の所 澤村まげりてまゝまゝ  
ゆきまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

草後也 牡丹 花のまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

みよのなまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
なまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
雲の初来の  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

雨のうらまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

六 言 雲のけりて 夕方に雲の無のこゝろまゝまゝまゝ  
雲の無のこゝろまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
雲の初  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

くまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ  
まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

生苑の海のまゝ

くまのたふふ 美の枯さくふの新まり

くねいふ 道多の祠也昔吳国へ使をつらふ時高麗王へ道多とを修ふとたてくねいふと二人をつらふ是ふ

くろくあ 明書のくろくあたる

くろくや 国のやう

くろくえ 雨雲立のありと雨降一後又もその

くろく 月はくろくといふせんくをうらふ

くろく まの杖のたふふ

くろく 春野とやたふふ

くろくのすくきと  
ハムリ  
とハムリ  
すくきの  
すくきの

くろくのすくきと  
ハムリ  
とハムリ  
すくきの  
すくきの

くろくのすくきと くろくのすくきと矢形尾の

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

くろくのすくきと 雲のたふふ

神  
舌  
解

あぢうよの  
くわんせいの  
くわんせいの

くわんせいの  
まづこころをり  
いのんたうも

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの

あぢうよの  
まづこころをり  
あぢうよの







